

1

解答解説のページへ

次の各問いに答えよ。

- (1) z が虚数で $z + \frac{1}{z}$ が実数のとき $|z|$ の値 a を求めよ。
- (2) (1) で求めた a に対して、 z が条件 $|z| = a$ をみたしながら動くとき、
 $w = (z + \sqrt{2} + \sqrt{2}i)^4$ の絶対値と偏角の動く範囲を求めよ。

2

解答解説のページへ

$a > 0$ とする。関数 $f(x) = |x^3 - 3a^2x|$ の $-1 \leq x \leq 1$ における最大値を $M(a)$ とするとき、次の各問いに答えよ。

- (1) $M(a)$ を a を用いて表せ。
- (2) $M(a)$ を最小にする a の値を求めよ。

3

解答解説のページへ

座標空間内の8点 $O(0, 0, 0)$, $A(2, 0, 0)$, $B(2, 2, 0)$, $C(0, 2, 0)$,
 $P(0, 0, 1)$, $Q(2, 0, 1)$, $R(2, 2, 1)$, $S(0, 2, 1)$ を頂点とする直方体を考える。
次の各問いに答えよ。

- (1) $D = (x, y, 1)$ を面 $PQRS$ 上の点とするときベクトル \overrightarrow{OD} を x, y およびベクトル \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OC} , \overrightarrow{OP} を用いて表せ。
- (2) ベクトル \overrightarrow{OD} がベクトル \overrightarrow{CQ} と直交するための条件を x, y を用いて表せ。
- (3) $\overrightarrow{OD} \perp \overrightarrow{CQ}$ である D の中で $|\overrightarrow{OD}|$ が最小となるような D を与える x, y の値を求めよ。

1

問題のページへ

$$(1) \quad z + \frac{1}{z} \text{ が実数より, } z + \frac{1}{z} = \bar{z} + \frac{1}{z}$$

$$z - \bar{z} + \frac{\bar{z} - z}{zz} = 0, \quad |z|^2(z - \bar{z}) - (z - \bar{z}) = 0$$

$$(|z|^2 - 1)(z - \bar{z}) = 0$$

z が虚数より $z \neq \bar{z}$ なので $|z| = 1$, すなわち $a = 1$

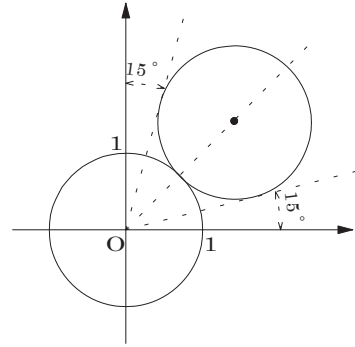
$$(2) \quad (1) \text{ より } |z| = 1 \text{ のとき, } u = z + \sqrt{2} + \sqrt{2}i \text{ と}$$

おくと, 点 u は点 $\sqrt{2} + \sqrt{2}i$ を中心とし,
半径 1 の円周上を動く。

$$1 \leq |u| \leq 3 \text{ より, } |w| = |u^4| = |u|^4 \text{ なので,}$$

$$1 \leq |w| \leq 81$$

また, 偏角を 0° 以上, 360° 未満で考えると,
 $15^\circ \leq \arg u \leq 75^\circ$ より, $\arg w = \arg u^4 = 4 \arg u$
なので, $60^\circ \leq \arg w \leq 300^\circ$



[解説]

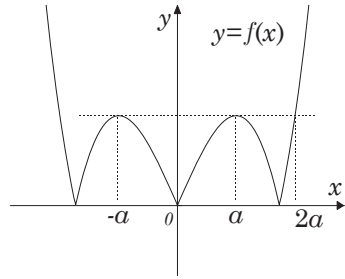
(1)は有名問題です。共役複素数を用いた解がベストです。(2)は図を利用して考えますが, 平行移動に注目すれば結論までも一気です。なお, 本年のセンター本試の問題と考え方が似ています。

2

問題のページへ

(1) $g(x) = x^3 - 3a^2x$ とすると, $f(x) = |g(x)|$
 $g'(x) = 3x^2 - 3a^2 = 3(x+a)(x-a)$

x	...	$-a$...	a	...
$g'(x)$	+	0	-	0	+
$g(x)$	↗	$2a^3$	↘	$-2a^3$	↗



$g(x) = 2a^3$ の解は, $x^3 - 3a^2x - 2a^3 = 0$ から,

$$(x+a)^2(x-2a) = 0, \quad x = -a, \quad 2a$$

また, $f(-x) = f(x)$ より, $f(x)$ の $-1 \leq x \leq 1$ における最大値は $0 \leq x \leq 1$ における最大値と一致する。

(i) $2a < 1$ ($0 < a < \frac{1}{2}$) のとき

$$M(a) = f(1) = |g(1)| = g(1) = 1 - 3a^2$$

(ii) $2a \geq 1$ かつ $a < 1$ ($\frac{1}{2} \leq a < 1$) のとき

$$M(a) = f(a) = |g(a)| = -g(a) = 2a^3$$

(iii) $a \geq 1$ のとき

$$M(a) = f(1) = |g(1)| = -g(1) = 3a^2 - 1$$

(2) 最大値 $M(a)$ は連続的に変化し, $0 < a < \frac{1}{2}$ のときは単調減少, $a \geq \frac{1}{2}$ のときは単調増加することより, $M(a)$ が最小となるのは $a = \frac{1}{2}$ のときである。

[解説]

関数のグラフを書き, 極値や区間の境界値を比較して最大値を求める問題です。ていねいな場合分けがすべてです。

3

問題のページへ

(1) $\overrightarrow{OD} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OC} + \overrightarrow{OP}$ ($0 \leq s \leq 1$, $0 \leq t \leq 1$) とおく。

$$(x, y, 1) = s(2, 0, 0) + t(0, 2, 0) + (0, 0, 1)$$

$$x = 2s, \quad y = 2t \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\text{よって, } \overrightarrow{OD} = \frac{x}{2}\overrightarrow{OA} + \frac{y}{2}\overrightarrow{OC} + \overrightarrow{OP}$$

(2) $\overrightarrow{CQ} = (2, 0, 1) - (0, 2, 0) = (2, -2, 1)$

$$\overrightarrow{OD} \perp \overrightarrow{CQ} \text{ より, } \overrightarrow{OD} \cdot \overrightarrow{CQ} = 0$$

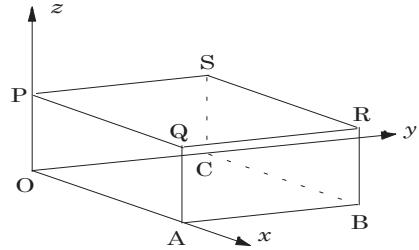
$$\text{よって, } 2x - 2y + 1 = 0$$

(3) (2)より, $y = x + \frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{2}$

$$|\overrightarrow{OD}|^2 = x^2 + y^2 + 1 = x^2 + \left(x + \frac{1}{2}\right)^2 + 1 = 2x^2 + x + \frac{5}{4} = 2\left(x + \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{9}{8}$$

$$\text{ここで, } 0 \leq s \leq 1, \quad 0 \leq t \leq 1 \text{ で } \textcircled{1} \text{ より, } 0 \leq x \leq 2, \quad 0 \leq y \leq 2 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

すると, $x = 0$ のとき $|\overrightarrow{OD}|^2$ は最小となるが, このとき $\textcircled{2}$ から $y = \frac{1}{2}$ となり, これは $\textcircled{3}$ をみたらす。よって, $(x, y) = \left(0, \frac{1}{2}\right)$ とき $|\overrightarrow{OD}|$ は最小値をとる。



[解説]

本問の(2)の設問「ベクトル \overrightarrow{OD} がベクトル \overrightarrow{CQ} と直交する」というのは、高校数学の立場に翻訳すると「ベクトル \overrightarrow{OD} がベクトル \overrightarrow{CQ} と垂直である」ということでしょう。なお今年、九大では、ベクトルの問題(文系 4D(1)③, 理系 5D(1)②)において、問題用紙に「直交する」と書かれていた箇所を「垂直」に直すと問題文に訂正がありました。九大の上記の問題を参照してください。